

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 23 日現在

機関番号：11301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06017

研究課題名(和文)現代ハワイアン^①の歴史的記憶とフラ メリーモナーク・フェスティバルの検討を中心に

研究課題名(英文)Collective Memory of the Contemporary Hawaiians: An Analysis of Merrie Monarch Festival

研究代表者

目黒 志帆美(Meguro, Shihomi)

東北大学・国際文化研究科・GSICSフェロー

研究者番号：60754744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：現代においてハワイの伝統舞踊フラは、ローカリズムとグローバリズムが絡み合う形で発展を遂げている。本課題は、フラの競技大会メリーモナーク・フェスティバルを考察の対象とし、フィールドワークと文献調査をつうじて、現代におけるフラがいかなる集団のいかなる記憶と衝動に支えられているのかを分析した。その結果、現代のハワイアンにとってのフラが、アメリカによるハワイ支配の歴史を拒みハワイアンの自立性を主張する手段であるとともに、重要な観光資源であることがあらためて明らかになった。さらに、フラの商業観光化を促進させているのは、「フラの真正性」を追求する日本人フラ愛好者の存在であることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Today, Hawaiian traditional dance, hula is evolving in the local and global space. The object of this study is clarifying how the contemporary hula is developing. In order to consider the problem, this study mainly focused on the Merrie Monarch Festival which is the hula competition held every spring on Hawaii. On the basis of the fieldwork and the references, it can be concluded that contemporary Hawaiians seem hula as a way to assert their independence, as well as commercial culture. Moreover, it is clear that Japanese hula-lovers have been making hula like that, since they have been pursuing genuine hula eagerly.

研究分野：ハワイ史

キーワード：ハワイ フラ 歴史的記憶

1. 研究開始当初の背景

これまでハワイの歴史は「白人による抑圧とそれに対するハワイアンへの抵抗の物語」として二項対立的に描かれてきた。しかし、アメリカに併合される以前のハワイ王国の国王は、国内において影響力を強化していく白人勢力と対峙しつつ、他方では自らの権威のもとに国民を統合・統治する責務が課せられた。したがって、王権に着目しつつハワイ史を再構成することは、従来の二項対立的分析枠組みでは解明しえなかったハワイアン内部の重層的な権力関係の解明につながると考えられる。こうした着想のもと、これまでの研究では、ハワイの伝統舞踊であるフラに注目し、これを王権とのかかわりのなかでとらえなおすことにより、歴代国王が王権の正統性を維持する媒体としてフラを用いてきたこと、およびフラの変容が王権の消長と密接な関連を有していたことを明らかにした。

このなかで新たな課題として浮かび上がったのは、現代のフラがもつ意義を解明する必要がある。それというのも、併合後、英語のハワイアン音楽に合わせた官能的娯楽としてアメリカ文化へと包摂されたフラは、ハワイアンによる先住民権利回復運動が本格化した1970年代以降には、伝統的フラが「ハワイアン性」のアイコンとして運動を下支えする存在となったからである。その結果、現代のフラは、伝統的フラを「創造」する側であるハワイアンとそうしたフラに「真正性」を認める日本人をはじめとする非ハワイアンの間でその需要と供給とが一致し、グローバルな規模でのフラ・ビジネスを招来している。そこで、本研究はハワイアンの歴史的記憶が現代のフラにいかんにか反映されているのかに着目した。

2. 研究の目的

本研究では、世界最高峰のフラの競技大会であるメリーモナーク・フェスティバル

を分析対象にし、同フェスティバルにハワイアンのいかなる歴史的記憶が表象されているのかを考察した。

同フェスティバルは開催初期の1960年代において、フラは中心的役割を担っていなかった。しかしながら、1970年代に入り、ハワイアンの権利回復運動の気運が高まるのと軌を一にして、同フェスティバルはフラの競技大会へと姿を変えた。これ以降、現代にいたるまで、同フェスティバルはその目的として伝統的フラを復興したカラカウア王の功績の顕彰とフラの継承を掲げることで、ハワイアンの独自性を島内外にアピールしている。また、現代においてフラがグローバルなレベルで文化的関心と商業的関心を惹起しているのは、このフェスティバルの存在によるところが大きい。したがって、このフェスティバルこそ1970年代以降のフラの歴史の中核を担ってきたといえ、この場で確認されるフラの歴史を検証せずに現代におけるハワイ文化の意味を把握することは不可能である。

ところで、同フェスティバルの意義を検証する上でもっとも重要性を持つのは、この場で構築・再構築されるハワイアン自身の「歴史的記憶」の分析である。それというのも、1970年代初頭において、フラは「白人への抵抗とハワイアンとしての誇りを表象する文化」として位置付けられたからである。ここでフラはいかなるマイノリティ文化として記憶されたのであろうか。こうした問題関心のもと、本研究ではハワイアンの「歴史的記憶」の構築過程に焦点を当てることとした。

3. 研究の方法

本研究は、文献・映像資料に基づいた分析と、フィールドワークとを組み合わせた研究方法を採用し、以下の二つのプロセスを経ておこなった。

20世紀前半期におけるハワイの社会・経

済・外交的状況に照らし合わせながら、この時期のフラの変容を分析した。

20世紀前半期において、アメリカで一大ブームを巻き起こしたフラは、ハワイの軍事的・経済的価値を高める手段として機能した。さらに、1959年にハワイが正式な州へと昇格すると、フラは、ハワイの観光産業を振興させる媒体として活用された。本研究では以上のような20世紀前半期の「フラのアメリカ化」の実相を明らかにした上で、この現象に対するハワイアンへの対応を考察した。

以上の作業によって20世紀のフラの歴史を明らかにした上で、メリーモナーク・フェスティバルが開催当初から現代にいたるまでいかなる変容を遂げたのかを追跡するとともに、これにかかわるハワイアンの歴史的記憶がいかに構築され、その記憶がいかに継承されたのかを明らかにした。

具体的にはまず、このフェスティバルが1970年代以降いかなる文化的・政治的意図のもとで開催されたのかを、過去約40年間に発行されたパンフレット、関連する新聞・雑誌記事、競技大会映像等の文献・映像資料をもとに分析した。それと並行して、現地調査によって彼らがいかなる歴史的意識のもとにフラを実践しているのかを考察した。

4. 研究成果

本課題は、フラの競技大会メリーモナーク・フェスティバルを考察の対象とし、フィールドワークと文献調査をつうじて、現代におけるフラがハワイアンのいかなる記憶と衝動に支えられているのかを分析した。

その結果、以下の三つの点が明らかになった。第一に、現代のハワイアンにとってのフラが、アメリカによるハワイ支配の歴史を拒み、ハワイアンの自立性を主張する手段であり続けているということである。1893年にハワイ王国が転覆して以降、フラはその官能性ゆえにアメリカ人の人気を博した。20世紀に入り、アメリカの軍事的・観光的拠点としてハワイの重要性が認知されるにつれ、フラはハワイの魅力を訴える手段として機能することになった。こうしたフラの観光商品化現

象をアメリカによる支配の一形態である、として糾弾する動きがハワイアンの中で醸成されたのは1970年代のことであった。このような「抵抗」としてのフラの姿はいまだに根強く、メリーモナーク・フェスティバルにおいてはとりわけ顕著にあらわれている。

第二に、現代におけるフラは、ハワイにおいて重要な観光資源として根付いているということが明らかになった。それは、メリーモナーク・フェスティバルが開催されるハワイ島ヒロにおけるビジネスの多く、フェスティバルの開催をその拠り所としていることからも傍証される。

第三に、ハワイアンにとって自文化の独自性をアピールする手段でありつつも、ハワイの重要な観光資源である、という二つの側面を有する現代フラを下支えしているのは、日本人を中心とするフラ愛好者であるということである。メリーモナーク・フェスティバルの現地調査においては、日本人フラ愛好者やツアー関係者と行動をともにし、参与観察をおこなうことで、日本人のフラにたいする熱狂性こそがフラの観光商品化を促進していることが明らかになった。

以上要するに、現代におけるフラは、ハワイアンにとって自民族の独自性と白人勢力への抵抗をあらわす文化であり続ける一方で、ハワイの観光産業にとっては不可欠なものであり、フラをそのような二面性を有するハワイ文化へと仕立てている要因が、日本人フラ愛好者にあるということが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

目黒志帆美、「併合前夜のハワイ王国における文化の「復興」と「創造」 カラカウア王のフラ政策再考」、『国際文化研究』、査読有、第23号、2017年、印刷中

目黒志帆美、「ハワイ王国における二元統治体制-クヒナ・ヌイ制度の成立から廃止まで-」、『歴史』、査読有、第126輯、2016年、1-29頁。

目黒志帆美「古代フラと支配者階級の権威-古代ハワイにおけるフラの政治的機能-」、『比較舞踊研究』、査読有、第22巻、2016年、10-21頁。

〔学会発表〕(計 3 件)

目黒志帆美「ハワイ王国で醸成されるアメリカ人の『自国認識』-マーク・トウェインの『ハワイ通信』を中心に」日本国際文化学会、2017年7月6日、宮崎公立大学(宮崎)

目黒志帆美「シカゴ万博(1893)におけるフラ-民族舞踊の越境とその歴史的意義をめぐって-」比較舞踊学会、2016年11月27日、沖縄県立芸術大学(沖縄)

目黒志帆美「『メリーモナーク』カラカウ
ア再考-19世紀ハワイ王国における王権とフ
ラ」比較舞踊学会、2015年11月29日、日本
女子大学（東京）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

目黒 志帆美（MEGURO, SHIHOMI）
東北大学・大学院国際文化研究科・フェロ
ー

研究者番号：60754744

(2) 研究分担者

（ なし ）

研究者番号：

(3) 連携研究者

（ なし ）

研究者番号：

(4) 研究協力者

（ なし ）